

第7回薬学教育協議会・医薬品情報学教科担当教員会議 議事録

【日時】平成29年7月7日（金） 14:30～17:00

【会場】慶應義塾大学薬学部 3号館11階 1101会議室

〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30 ☎: 03-3434-6241（代）

【出席者】全国68大学・薬学部から77名の教員が参加した。

今回の医薬品情報学教科担当教員会議は、「医薬品情報に関連するSBOsの評価」をメインテーマとして、医薬品情報演習におけるパフォーマンス評価に用いるルーブリック表の作成をスモールグループディスカッション形式で討議した。以下に、その内容を記載する。

1. 医薬品情報学教科担当教員会議 開催担当校代表 望月眞弓先生（慶應義塾大学）より、開会のあいさつがあった。

2. 本会議副委員長 小林道也（北海道医療大学）より、委員長の後藤伸之先生（名城大学）が平成29年4月より福井大学医学部附属病院 教授・薬剤部長にご就任されたため、本会議を退会されたとの説明があった。現状の委員長不在のままでは会議運営に支障をきたすため、小林が委員長として会議を運営してよろしいかどうか協議となり、出席者の賛成多数で承認された。

併せて、空席となった副委員長については小林委員長に一任されること、ならびに次期開催担当校の代表も副委員長とすることが承認された。

3. 小林委員長より、本日のグループワークについての趣旨説明と実施についての説明があり、以下の要領でグループ討論を行った。

テーマ： 医薬品情報に関連するSBOsの評価

医薬品情報演習のパフォーマンス評価討論 ～ルーブリックの活用～

班分け：74名（うち、1名欠席）を10グループに分けた。（別紙1）

進行方法：1) 模擬医薬品情報演習の課題（別紙2）を決め、学生のプロダクトをイメージする。

2) 「演習における学生の態度」についてのルーブリック表を作成する。

3) 「学生が作成するプロダクト」についてのルーブリック表を作成する。

4) グループで作成されたルーブリック表について発表会。

大津史子先生（名城大学）と小林がチューターとなり、また開催担当校の望月先生、橋口正行先生のサポートの元、活発なグループ討論が行われた。また発表会については、時間の関係上、3つのグループから発表をいただいた。なお、各グループのプロダクトは小林が取りまとめて報告書とし、医薬品情報学教科担当教員に送信することで情報の共有を行うこととなった。

4. 次年度、第8回薬学教育協議会・医薬品情報学教科担当教員会議は、鈴鹿医療科学大学 長南謙一先生が担当されることとなり、長南先生よりご挨拶があった。

5. 小林委員長より閉会の挨拶があり、会議がすべて終了した。

（文責：北海道医療大学 小林道也）

別紙1 参加者グループ表

グループ	大学名	氏名
A	北海道大学	菅原 満
A	城西大学	大島新司
A	昭和大学	加藤裕久
A	帝京大学	鈴木義彦
A	金城学院大学	矢野玲子
A	摂南大学	高田雅弘
A	安田女子大学	新井茂昭
A	長崎大学	萩森政頼
グループ	大学名	氏名
B	北海道薬科大学	黒澤菜穂子
B	日本大学	日高慎二
B	星薬科大学	白水俊介
B	横浜薬科大学	山口友明
B	愛知学院大学	長田孝司
B	大阪大谷大学	初田泰敏
B	福山大学	片山博和
B	長崎国際大学	大磯 茂
グループ	大学名	氏名
C	青森大学	三浦裕也
C	日本大学	泉澤 恵
C	東京薬科大学	山田安彦
C	新潟薬科大学	坂爪重明
C	鈴鹿医療科学大学	長南謙一
C	神戸薬科大学	土生康司
C	広島国際大学	佐和章弘
C	熊本大学	城野博史
グループ	大学名	氏名
D	岩手医科大学	西谷直之
D	日本薬科大学	久保田洋子
D	富山大学	阿部 肇
D	京都薬科大学	橋詰 勉
D	兵庫医療大学	森山雅弘
D	徳島大学	山内あい子
D	崇城大学	中嶋弥穂子
グループ	大学名	氏名
E	東北大学	菊地正史
E	東京理科大学	佐藤嗣道
E	明治薬科大学	岸野 吏志
E	金沢大学	松下 良
E	同志社女子大学	松元加奈
E	兵庫医療大学	藤野秀樹
E	徳島大学	佐藤陽一
E	九州保健福祉大学	下堂 蘭権洋

グループ	大学名	氏名
F	東北医科薬科大学	村井ユリ子
F	千葉科学大学	生城山勝巳
F	明治薬科大学	大野 恵子
F	北陸大学	毎田千恵子
F	大阪大学	高木達也
F	武庫川女子大学	片岡和三郎
F	徳島文理大学	京谷庄二郎
グループ	大学名	氏名
G	奥羽大学	高橋則男
G	城西国際大学	佐田宏子
G	武蔵野大学	大室弘美
G	岐阜薬科大学	中村光浩
G	大阪薬科大学	中村敏明
G	姫路獨協大学	木下 淳
G	徳島文理大学香川薬学部	飯原なおみ
グループ	大学名	氏名
H	いわき明星大学	石川暁志
H	帝京平成大学	荒川一郎
H	武蔵野大学	永井尚美
H	静岡県立大学	山田 浩
H	大阪薬科大学	恩田光子
H	岡山大学	合葉哲也
H	松山大学	柴田和彦
グループ	大学名	氏名
I	国際医療福祉大学	前澤佳代子
I	東京大学	堀 里子
I	昭和薬科大学	山本 美智子
I	名古屋市立大学	菊池千草
I	近畿大学	高田充隆
I	就実大学	毎熊隆誉
I	第一薬科大学	窪田敏夫
グループ	大学名	氏名
J	高崎健康福祉大学	土井信幸
J	北里大学	岩澤真紀子
J	昭和薬科大学	土肥 弘久
J	名城大学	田辺公一
J	近畿大学	細見光一
J	広島大学	猪川和朗
J	福岡大学	右田啓介

サポーター	
北海道医療大学	小林道也
慶應義塾大学	望月眞弓
慶應義塾大学	橋口正行
名城大学	大津史子

第7回医薬品情報教科担当教員会議 ワークショップのながれ

テーマ： 医薬品情報に関連するSBOsの評価（医薬品情報演習のパフォーマンス評価討論
～ルーブリックの活用～）

【このワークショップの狙い】

- ・医薬品情報教育のSBOに関連する「模擬演習授業」を企画して、演習での学生の活躍（自己評価）とプロダクト（学生が目指す指標／教員による評価）についてのルーブリック表を作成する。
- ・態度については、グループワークの態度だけでなく、「将来薬剤師となった時に、患者や医療関係者に対してどれだけ配慮した資料を作成できるか？」についても考える。

【具体的な課題】

E3-(1) 【⑦医薬品の比較・評価】

2. 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。
（技能）→入院患者向けの資料を作成する 又は 病棟医師向けの資料を作成する
3. 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）→外来患者向けの資料を作成する 又は 薬事委員会向けの資料を作成する

のいずれかのSBOに関連する演習を企画し、学生が作る一覧表をイメージする（シート1）

★その演習に参加する学生の演習中の活躍度（自己評価）と、・・・シート2

★プロダクト（学生が素晴らしいレポートを作成するための指標 かつ レポート等を教員が評価するための指標） について、・・・シート3

★それぞれを評価するためのルーブリック表を作成する。

★態度のSBOについては、実習態度も重要だが、提供相手を考慮したレポート作成にも重要

【演習を行う学生の設定】

開講時期： 4年前期必修1単位（10コマ）、第7回と8回目の講義を演習として設定

グループワーク人数：6名

グループワーク時間：90分×2

インターネット接続されたPCを1グループに2台貸与

その他、必要な資料（添付文書、インタビューフォーム等）は適宜配布

【本ワークショップで討議・作成していただくもの】

@演習内容（タイトルはシート1に記載し、内容はグループ内で討論・共有する）

@演習中の活躍に対するルーブリック表（シート2）

@プロダクトに対するルーブリック表（シート3）

【本ワークショップのプロダクトについて】

・書記の方は、後日メールにてひな型ファイルをお送りしますので、入力してメール返信してください。